



<中国>

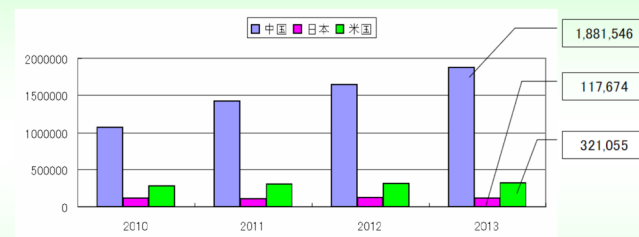
中国知財訴訟における損害賠償額の高騰化傾向

北京集佳知識産権代理有限公司
中国弁理士
経 志強

2009年にフランスのシュナイダー社が中国の実用新案権を侵害したと主張する正泰集団に補償金1.575億中国元(約25億円)を支払うことで和解に達したニュースは中国国内外で大きな話題を呼んでいましたが、その3年後の2012年には米国のアップル社が中国本土での「iPad」の商標権を主張する唯冠科技社(広東省)に補償金6千万米ドル(約60億円)を支払うことで和解となったニュースは大きく報道され、中国知財訴訟における損害賠償金の高騰化が再び注目を集めました。確かに、中国では知財紛争事件における損害賠償額が増加傾向にあることは近年弊所が代理した訴訟からも明らかとなっております。例えば、2013年に弊所が代理した「七色花」商標と「全友」商標を巡る訴訟では、何れも商標権者が勝訴し、それぞれ3千万中国元(約5億円)と1千4百万中国元(約2.3億円)の損害賠償金の支払を命じる判決が言い渡されました。また、2011年に弊所が特許権者である米国Ashland社を代理して行った製法特許を巡る訴訟では、被告側が原告のAshland社に補償金2200万中国元(約3.6億円)を支払うことで和解となりました。

また、判例だけではなく、法改正においても「穴埋め」から「懲罰的賠償制度」を導入する動きが強くなっております。例えば、今年施行された改正商標法では、商標権侵害事件において故意侵害に対し、米国のように確定した損害賠償金額の1~3倍の賠償を命ずることができるようになりました。また、今検討中の特許法改正案にもこのような「懲罰的賠償制度」を導入することとなっております。

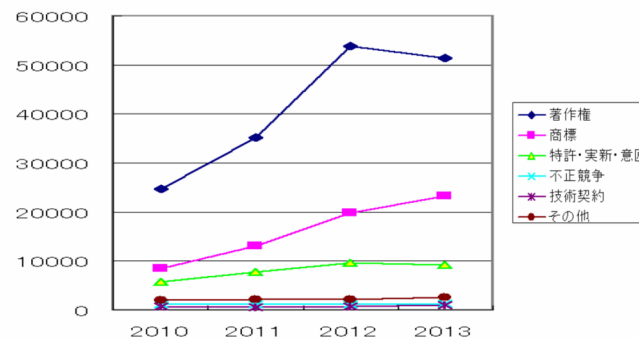
中、日、米三国特許庁が受理した商標出願件数の推移



出所:五庁公式ウェブサイト、三国特許庁ウェブサイトの発表により作成

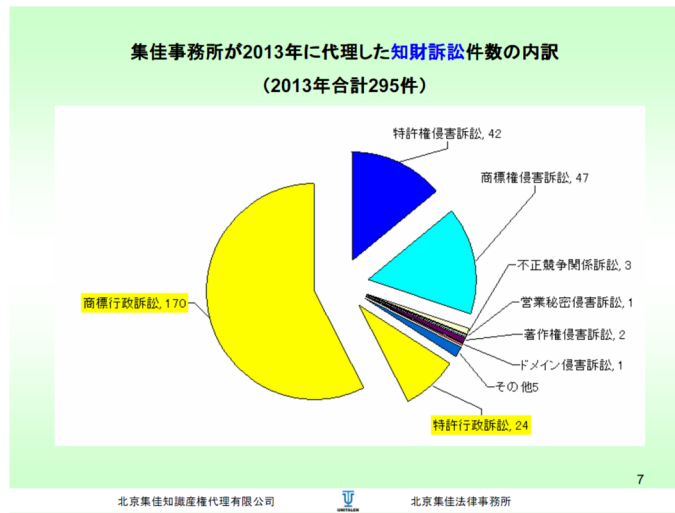
北京集佳知識産権代理有限公司 北京集佳法律事務所

全国裁判所が新規受理した知財民事訴訟件数の内訳



出所:最高人民法院の発表により作成

北京集佳知識産権代理有限公司 北京集佳法律事務所



< China >

IP Compensation for Damage Increasing in China

Beijing Unitalen Attorneys at Law
China Attorney
Jing Zhiqiang

In 2009, French company Schneider reached a reconciliation with the Chint Group on the Chinese utility model infringement by paying a compensation of 157.5 million yuan, attracting attention both in China and abroad. Three years later, in 2012, U.S. firm Apple paid Proview Technology in Guangdong province US\$60 million for the reconciliation on exploiting the trademark of "iPad" in China, again underlining the increasing amount of compensation in IP disputes in China. Indeed, litigations for which we were recently deputed presented the same trend. For instance, in the litigations on trademarks of "Qisehua" and of "Quanyou" in 2013, the trademark holder won both cases and the court decided the payment of 30 million yuan and of 13 million yuan respectively. In 2011, we represented U.S. company Ashland at the litigation on its process patent, which ended with the reconciliation of paying 22 million yuan to the plaintiff, Ashland.

Amendments to laws seem to go in the same direction with those cases, implementing the change of concept from "making up the loss" to "punishing for the damage". For example, amended Trademark Act enforced this year allows the order of payment of up to three times the confirmed amount of compensation when the trademark infringement is intentional, just as in the U.S. Ongoing amendment to Patent Act also has a plan to introduce this kind of "punishing compensation".

Ⅲ- (1) 賠償金額高騰化傾向

改正商標法第63条

■ 懲罰的賠償制度の導入

悪意がある場合、損害賠償金：「穴埋め」から「3倍」へ；

■ 人民法院は、賠償金額を確定するために、権利者が挙証に力を尽くしたが、権利侵害行為に関わる帳簿、資料が主に権利侵害者に支配されている場合、権利侵害者に対し権利侵害行為に関わる帳簿、資料の提供を命じることができる。権利侵害者が提供しない、または虚偽の帳簿や資料を提供する場合、人民法院は権利者の主張及び提供した証拠を参考にして賠償金額を判定することができる。

■ 法定賠償額の引き上げ

法定賠償額の上限：50万元から300万元へ；